2021年

新型コロナウイルス感染症対応

子どもたちと家族の食の状況を改善
「子どもの食 応援ボックス」実施報告

Save the Children



※無断転載・転送禁止



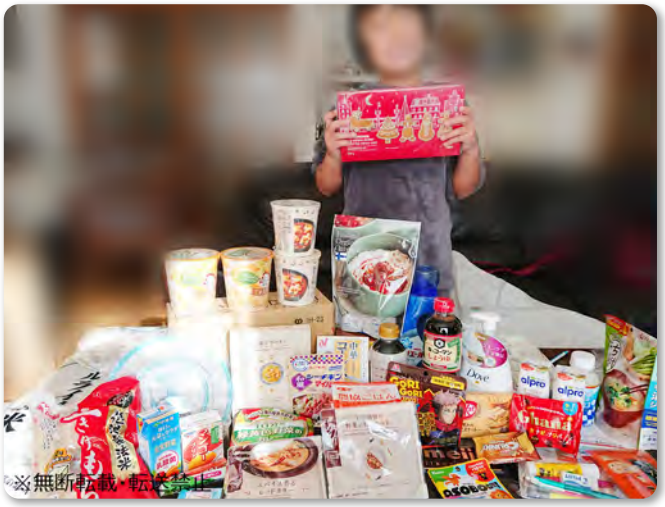
※無断転載・転送禁止


※無断転載・転送禁止




※無断転載・転送禁止


※無断転載・転送禁止


※無断転載・転送禁止

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

皆さまのご支援による「子どもの食 応援ボックス」が新型コロナウイルス感染症下の子どもや保護者を支えました。

長期化する新型コロナウイルス感染症の流行により子どもや保護者に深刻な影響が及ぶなか、セーブ・ザ・チルドレンは、2020 年の「ひとり親家庭応援ボックス」に続き、2021年には対象世帯と配布数量を拡大して、「子どもの食 応援ボックス」の配布を２回にわたり実施しました。皆さまからのあたたかいご支援が、子どもたちと家族の食の状況を改善し、新型コロナウイルス感染症拡大下で困難な状況に置かれた子どもたちの生きる権利・育つ権利を保障するために大きな力となりました。また、利用世帯の切実な状況をレポートにまとめ、新型コロナウイルス感染症の影響について社会に伝えることもできました。
皆さま一人ひとりのご協力に心からの感謝をお伝えするとともに、これまでの活動の成果をご報告します。

6,380世帯

に「応援ボックス」を届けました。
子ども12,129人
大人8,033人（19歳以上）









対象世帯・配布数量を拡大して、子どもたちとその家族のニーズに沿った配布を行いました。

2020年から引き続き2021年も、新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が断続的に続き、経済的に困難な状況に置かれた子育て世帯にとっては、子どもたちの食の確保が重大な課題の一つでした。そのため、学校給食がなくなり、子どもたちの食が不十分になりやすい長期休暇にあわせて、夏休みと冬休みの2回、「子どもの食 応援ボックス」の配布を実施しました。

2021年は、皆様のご協力により、より広い地域のより多くのご家庭に配布を実施しました。



「冬休み 子どもの食応援ボックス」

配布内容

- 食料品セット
  （米などの主食、副菜となるレトルト食品、調味料、お菓子など）
- 日用品、文房具※冬のみ
- 情報提供（子どものこころのケアのリーフレットなど）

申込条件

- 対象地域に申込時居住する（緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発令された都道府県に申込時居住）
- 0歳～18歳までの子どもを扶養する
- 所得割非課税世帯またはそれに準ずる

2020年5/6月
ひとり親家庭応援ボックス
310世帯
対象地域：東京23区
1,010世帯
対象地域：4都県*1

2020年12月
ひとり親家庭応援ボックス
1,181世帯
対象地域：4都県*1
※5、6月に実施した「応援ボックス」利用者で発送を希望した家庭

2021年夏休み
3,182世帯へ発送/受取
発送：7月中旬
対象地域：21都道府県*2

2021年冬休み
3,200世帯へ発送/
3,198世帯で受取
発送：12月下旬
対象地域：33都道府県*3

＊1 東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県
＊2 北海道、宮城県、群馬県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県、愛媛県、福岡県、熊本県、沖縄県（21都道府県）
＊3　北海道、宮城県、福島県、茨城県、群馬県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、富山県、石川県、静岡県、岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県（33都道府県）







受け取られた方々から「ありがとう」が届いています。

本当にびっくりするくらい多くの品々で、感動して興奮して涙が出てしまい…子どもが心配してしまいましたが、嬉し涙だよと教えました。子どもたちもおかしや文房具にとても喜んでいました。助かる品々ばかりで、本当に有難いです。手元に届けていただくまでの間に、たくさんの方々の優しいお心遣いがあってのことだということを忘れずに、子どもたちとも話をしました。
本当にありがとうございます。時々しんどくなることありますが、皆様の温かさを胸に、しっかり前を向いて頑張ります！！



思った以上な日用品から食品、お菓子、文房具までお気遣いが感じられる、気持ちが温かくなる物ばかりで、子供と一品一品、凄いね～凄いね～嬉しいね～って言いながら、クリスマスプレゼントだね～って子供の笑顔を見ながら、胸が熱くなりました。離婚、コロナと経済的に苦しい中なんとか親子で贅沢せずやっと生活している中、カサカサな気持ちが皆さんの優しさが詰まったプレゼントで潤いました。本当にありがとう御座いました。





生活が苦しく、年末年始をどう乗り越えるか途方にくれていました。お腹がすいた、と言うこどもたちにたべさせるものがないこともあり空の冷蔵庫に暗い気持ちになっていましたが、たくさんの食べ物にこどもたちも大喜びでその顔を見て前向きに頑張っていこうと勇気づけられました。支援に関わるすべての皆様へのご恩は一生忘れません。本当にありがとうございました！

個人・企業・団体との連携によるコレクティブアクション

「子どもの食 応援ボックス」は、多くの個人の皆さまからのご寄付と、企業や団体による物品・資金・人材などの提供により、受益者の方々にお届けすることができています。

2021年の「子どもの食　応援ボックス」は、趣旨に賛同したザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム日本サステナビリティ・ローカル・グループおよび、WRI10×20×30食品廃棄削減イニシアティブ日本プロジェクトの参加企業のほか有志、さらにセーブ・ザ・チルドレンのパートナー企業より、食料品・日用品などの提供や資金提供、従業員寄付での協力をいただいて実施しました。

夏、冬あわせて34社の企業の皆さまに物品提供でご参加いただきました。

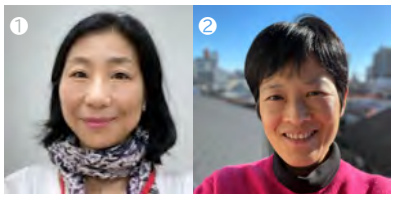
また、日本各地のセーブ・ザ・チルドレンの連携団体から告知や情報発信のご協力をいただくことで、支援を必要とする世帯にお申込みに関する情報を届けることができました。

セーブ・ザ・チルドレンは、団体・企業の皆さまと協業することで、活動規模の拡大や効率的な運営を目指し、子どもたちの健やかな成長に寄与すべく取り組んでまいります。



夏、冬あわせて
37社
に物品提供で
ご協力いただきました。

各種連携団体・企業からの声



❶ ザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム日本サステナビリティ・ローカル・グループ　事務局　新藤理子様

❷ WRI10×20×30食品廃棄削減イニシアティブ日本プロジェクト
事務局　山崎美穂様

セーブ・ザ・チルドレンさんと共に支援の輪を広げてまいりました。コロナ禍の子育て家庭を応援する目的を共有し、様々なメンバーが業界を超えて協業することは、有事の連携支援の枠組みづくりとしても有意義だと考えています。参加各社は、自社の得意な分野で協力し、各々が気づきを得て次の行動に活かしているように感じています。

株式会社バンダイ キャンディ事業部 立道康介様

バンダイ　キャンディ事業部では「おいしいだけじゃ、つまらない」をテーマに菓子事業を展開しております。食支援ボックスのご連絡を頂き、キャラパキを通じて“おいしさだけではない価値”をお子さまに届けたいという想いから支援させて頂きました。受け取ってくれたお子さまが少しでも笑顔になってくれていることを願っております。





社会福祉法人　熊本県ひとり親家庭福祉協議会てとてとて　会長　藤井宥貴子様

長引くコロナ禍の中、ひとり親家庭においては仕事や収入が減る一方で、夏休み・冬休みの子どもたちの昼食代やおやつ代などの食費がかさんで大変という声が挙がっていました。今回の子どもの食 応援ボックスは大変ありがたく、皆を元気づけて頂きました。心より感謝申し上げます。

その他、たくさんの個人の皆さまにも支えられ、活動を実施することができました。

「子どもの食 応援ボックス」利用世帯の生活状況

利用世帯へのアンケート調査より

回答件数

夏休み：**3,143**世帯

冬休み：**3,198**世帯

保護者の就業状況

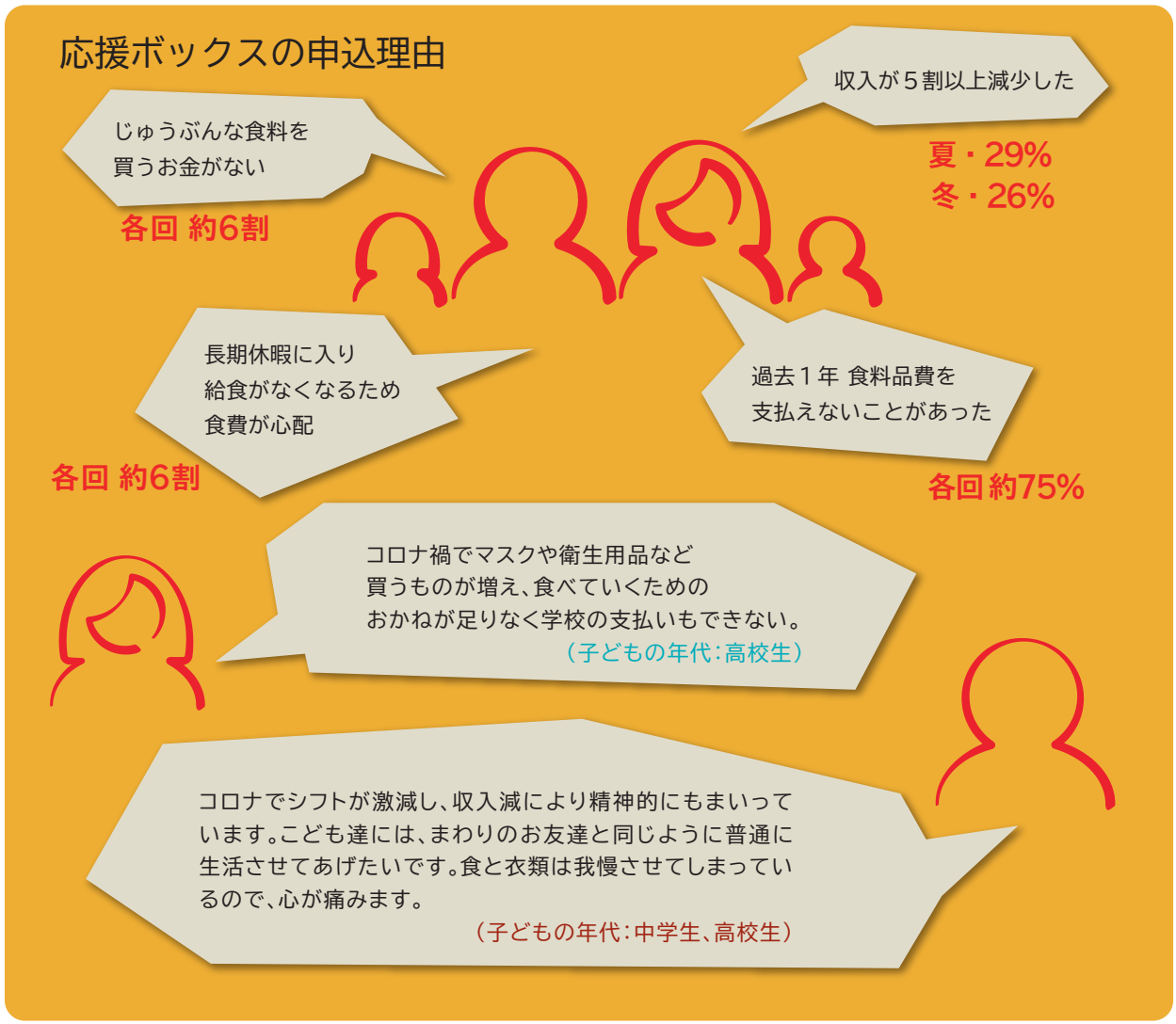
- パートアルバイト：　約5割
- 契約社員・派遣社員：約1割
- 無職・休職中・就労困難：
  夏約2割　冬約3割

収入が減少した割合

約４世帯に１世帯の収入が
半分以上減少、1割以上が収入ゼロ

世帯状況

ひとり親家庭の割合が95%以上



アンケートの結果を踏まえ、経済的に困難な状況にある子育て世帯への手厚い支援を行うよう国や自治体へ働きかけるとともに、子どもの貧困の根本的な解決につながるよう、諸制度の改善や社会保障の拡充を、関係団体などと連携して国や関係省庁へ求めていきます。

また、新型コロナウイルス感染拡大が経済的に困難な家庭に及ぼす影響は、2022年以降も続くことが予測されます。セーブ・ザ・チルドレンは、長期休暇中の「子どもの食 応援ボックス」配布の継続および、子どもの貧困問題解決への取り組みに一層尽力してまいります。

利用者アンケート結果

(夏)https://www.savechildren.or.jp/scjcms/dat/img/blog/3681/1631752835110.pdf

(冬)https://www.savechildren.or.jp/scjcms/dat/img/blog/3826/1644373040745.pdf

会計報告

個人や法人の皆さまからのご寄付により、「子どもの食　応援ボックス」では、各家庭への食料品などの提供、家庭の生活状況の調査・分析・発信、政策提言活動などの支援活動を展開することができました。

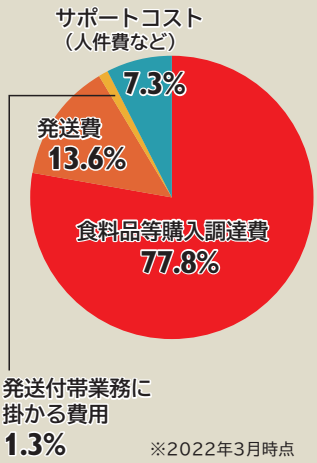
事業支出合計

91,025,884円

（2021年6月～2022年1月末）

内訳	金額
食料品等購入調達費	¥70,832,373
発送費	¥12,373,025
発送付帯業務に掛かる費用	¥1,152,302
サポートコスト（人件費など）	¥6,668,184
合計	¥91,025,884

支出の割合



※2022年3月時点

ご寄付のお願い

経済的に厳しい状況にある子どもたちやその家族がじゅうぶんな量の食事をとることができ、子どもたちの育ちが保障され、安心して長期休暇を迎えられるよう、個人・法人の皆さまのご支援をお願いいたします。

企業の皆さま

物品の調達、発送作業、配送等のための資金が必要なため、皆さまのご支援を必要としています。
企業としてのご寄付、自社商品（食料品）提供、または従業員の皆さまへのご寄付の呼びかけをご検討いただける場合は、下記のメールアドレスにご一報ください。

E-mail : japan.corporatepartner@savethechildren.org

個人の皆さま

いのち・みらい貯金箱

クレジットカードからの寄付

パソコン
スマートフォン

パソコン・
スマートフォンから
ご寄付いただけます。

いのちみらい貯金箱　検索

郵便局(ゆうちょ銀行)からの寄付

郵便振込口座：**00190-8-791030**
加入者名：いのち・みらい貯金箱

※ 備考欄に「いのち・みらい貯金箱」とご記入ください。※ 振込手数料はご負担をお願いしております。※ 領収証ご希望の方は、振込用紙通信欄にその旨ご記入ください。

■セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンへのご寄付は、税の控除を受けることができます。

Save the Children

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F
TEL: 03-6859-0070（平日9:30～18:00）
www.savechildren.or.jp

2022年3月発行